

シラバス

指定番号 35

商号又は名称： 株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (1) 職務の理解 | | | |
|--------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | ①介護保険サービスの概要を理解する。 ②介護職としての仕事内容及び介護現場を理解する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 多様なサービスと理解 | 3 | 3 | 0 | <講義内容> 介護保険サービスの理解 (居宅・施設)、介護保険以外のサービス |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 | 3 | 0 | <講義内容> 働く側から見た介護の仕事と利用者から見た介護サービスの状況をとおして、介護職の仕事内容と介護現場の理解を深める。 <演習実施方法> 介護職の仕事についてグループディスカッションを行う。 |
| (合計時間数) | 6 | 6 | 0 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 | | | |
|----------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 人間としてあるべき姿を認識し、利用者の何を守らなければならないのか、守るためには何が必要なのかを学ぶ。 ② 介護保険制度の核となる「自立支援」「介護予防」の概念を理解し、利用者のとらえ方、介護のあり方を考える。 ③ 人権及び人権擁護への取組みについて学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | 4 | 1 | 3 | <講義内容・通信学習課題の概要> 人権と尊厳の保持、QOLの考え方、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要 |
| ② 自立に向けた介護 | 3 | 1 | 2 | <講義内容・通信学習課題の概要> 自立支援、介護予防 |
| ③ 人権啓発に係わる基礎知識 | 2 | 2 | 0 | <講義内容> 人権について、人権擁護への取組み |
| (合計時間数) | 9 | 4 | 5 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (3) 介護の基本 | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 介護の専門性及び利用者の生活を支えるための多職種連携の意義と目的を理解する。 ② 自らすべてを判断して生活することが難しい利用者を守るために、介護職として求められている倫理を理解する。 ③ 介護現場の安全衛生を確保するために事故を起こさないための考え方や方法や感染症対策を学ぶ。 ④ 介護職員のからだところの健康管理について学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2 | 1 | 1 | <講義内容と通信学習課題の概要> 介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護に関わる職種、 |
| ② 介護職の職業倫理 | 2 | 1 | 1 | <講義内容と通信学習課題の概要> 職業倫理、 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 介護労働における安全の確保、事故予防、安全対策、感染対策、 |
| ④ 介護職の安全 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 介護職員のところの健康管理、介護職員のからだの健康管理 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | | | |
|----------------------|---|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 介護保険制度を理解する。 ② 介護と医療の連携について学ぶ。 ③ 障がい者総合支援制度を理解する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護保険制度 | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 介護保険制度創設の背景と目的、介護保険制度の動向、介護保険制度のしくみ、介護サービスの分類と種類、主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設、保険給付以外の事業 |
| ② 医療との連携とリハビリテーション | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 介護における医療と福祉の連携、介護職と医行為、リハビリテーション |
| ③ 障がい者総合支援制度およびその他制度 | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 障害者自立支援制度の背景、障害者自立支援制度の基本的な構造、個人の権利を守るその他の制度 |
| (合計時間数) | 9 | 1.5 | 7.5 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (5) 介護におけるコミュニケーション技術 | | | |
|-----------------------|---|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | ① コミュニケーションの技法を学び、相手の状態に応じたコミュニケーションについて学ぶ。 ② 情報共有のための記録、報告、連絡、相談について学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護におけるコミュニケーション | 3 | 1 | 2 | <p><講義内容と通信学習課題の概要> 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、コミュニケーションの技法、道具を用いたコミュニケーション、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p><演習の実施方法> グループで様々な利用者や家族を想定したコミュニケーション演習を行う。</p> |
| ② 介護におけるチームのコミュニケーション | 3 | 2 | 1 | <p><講義内容と通信学習課題の概要> 記録による情報の共有化、介護サービスにおける報告・連絡・相談、コミュニケーションをうながす環境</p> <p><演習の実施方法> 記録用紙を用いた記録方法</p> |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| | | | | |
|----------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 科目番号・科目名 | (6) 老化の理解 | | | |
| 指導目標 | ① 老化に伴うところとからだの変化と日常生活を理解する。 ② 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点を学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 老化に伴うところとからだの変化と日常 | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 老化に伴う心身の変化、老化に伴う心身の変化と日常生活 |
| ② 高齢者と健康 | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 高齢者と健康、高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (7) 認知症の理解 | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 認知症ケアの理念を学ぶ。 ② 疾患としての認知症を学ぶ。 ③ 認知症の具体的症状、コミュニケーション、基本的ケアを学ぶ。 ④ 介護者としての家族の思いを理解し、介護職員としてどのように支えられるかについて学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 2 | 1 | 1 | <講義内容と通信学習課題の概要> 認知症ケアの理念 |
| ② 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理 | 2 | 1 | 1 | <講義内容と通信学習課題の概要> 認知症の概念、認知症による障害、健康管理 |
| ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 中核症状、周辺症状、認知症の利用者への対応 <演習の実施方法> グループに分かれケーススタディを行う。 |
| ④ 家族への支援 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 家族への支援、 <演習の実施方法> グループに分かれ、ケーススタディを行う。 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (8) 障がいの理解 | | | |
|--|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 障害者を支援する法律や制度、考え方を学ぶ。 ② 障害の種類、病状、介護の留意点を学ぶ。 ③ 障害受容の過程から家族支援のありかたを学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 障がいの基礎的理解 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 障害の概念、ICF の考え方、障害者福祉の基本理念 |
| ② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義概要と通信学習課題の概要> 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害、障害の受容、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害 |
| ③ 家族の心理、かかわり支援の理解 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 家族の心理、家族への支援 |
| (合計時間数) | 3 | 1.5 | 1.5 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (9) 心とからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | ① 介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行ううえでの視点を学ぶ。 ② 利用者を主体とする介護の意味を理解する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護の基本的な考え方 | 4 | 0.5 | 3.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 理論と法的根拠に基づく介護 |
| ② 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解 | 5 | 0.5 | 4.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 |
| ③ 介護に関するからだのしくみと基礎的理解 | 4 | 0.5 | 3.5 | <講義内容と通信学習課題の概要> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、心とからだを一体的にとらえる |
| (合計時間数) | | | | |
| 使用する機器・備品等 | 特になし | | | |

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-------------------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | ① 生活支援としての家事サービスのあり方を考え、実際のサービスの留意点を学ぶ。 ② 身なりを整えることの意義や目的、必要な支援方法や考え方について学ぶ。 ③ 移動・移乗の意義、安全で安楽な介助を行うためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的介助技術等を学ぶ。 ④ 食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理、食事介助の方法を学ぶ。 ⑤ 様々な生活動作を伴う入浴における介助、清拭や部分浴にかんする支援の方法を学ぶ。 ⑥ 排泄に関する基礎知識、具体的な支援の方法を学ぶ。 ⑦ 睡眠のメカニズム、心地よい睡眠を確保するための環境や福祉用具の活用方法、快い睡眠のための支援方法を学ぶ。 ⑧ 終末期ケアの基礎知識、死に至る過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法を学ぶ。 ⑨ 支援を行ううえで最も重要な介護過程の意義や目的等、介護過程の基本的な視点や姿勢を学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ④ 生活と家事 | 3 | 3 | 0 | <講義内容と通信学習課題の概要> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的理解 <実習の演習方法> ベッドメイキング |
| ⑤ 快適な居住環境整備と介護 | 3 | 3 | 0 | <講義内容と通信学習課題の概要> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 |
| ⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 6 | 0 | <講義内容と通信学習課題等> 整容に関する知識、整容の支援技術 <演習の実施方法> DVD鑑賞 衣服着脱、口腔ケア演習 |
| ⑦ 移動に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <講義内容と通信学習課題等> 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法、介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 <演習の実施方法> DVD鑑賞 安全な移動・移乗、体位交換、車椅子の介助、歩行介助の演習 |
| ⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <講義内容と通信学習課題等> 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 <演習の実施方法> DVD鑑賞 食事介助の演習 |

| | | | | |
|------------------------------------|----|------|------|---|
| | | | | |
| ⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <p><講義内容と通信学習課題等> 入浴、清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、さまざまな入浴・清潔を保つための方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p><演習の実施方法> DVD鑑賞 入浴介助、清拭、洗髪、陰部洗浄、手浴、足浴の演習</p> |
| ⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 7 | 0 | <p><講義内容と通信学習課題等> 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因と支援方法</p> <p><演習の実施方法> DVD鑑賞 トイレ介助、おむつ交換の演習</p> |
| ⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | 6 | 0 | <p><講義内容と通信学習課題等> 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p><演習の実施方法> 安楽な姿勢および褥瘡予防のための福祉用具の活用演習</p> |
| ⑫ 死にゆく人のところとからだのしくみと終末期介護 | 6 | 6 | 0 | <p><講義内容と通信学習課題の概要> 終末期に関する基礎知識、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への準備</p> <p><演習の実施方法> 演習にもとづくロールプレイング</p> |
| ⑬ 介護課程の基礎的理解 | 5 | 5 | 0 | <p><講義内容と通信学習課題の概要> 介護過程に基づく介護展開、介護過程の基本的理解、介護過程の必要性、介護過程の流れ</p> <p><演習の実施方法> アセスメント、介護計画書、モニタリング等の記録用紙を用いた介護過程の演習</p> |
| ⑭ 総合生活支援技術演習 | 5 | 5 | 0 | <p><演習の実施方法> 事例検討 ① 80歳、女性、右半身麻痺、失語症（在宅） ② 88歳、女性、アルツハイマー型認知症（GH） ③ 81歳、女性、多発症ラクナ梗塞、軽度認知症（在宅） ④ 88歳、女性、糖尿病、アルツハイマー型認知症、寝たきり状態（特養）</p> |
| (合計時間数) | 75 | 63.5 | 11.5 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | 介護ベッド、クッション、車椅子、簡易浴槽、シャワーチェア、入浴台、食事用自助具、オーバーテーブル、尿器、差し込み便器、ポータブルトイレ |
|------------|---|

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

(別添 2 - 2)

平成 25 年 9 月 30 日現在

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 35

商号又は名称：株式会社クオレ

| | | | | |
|----------------------|---|-------------------|-------------------|---|
| 科目番号・科目名 | (10) 振り返り | | | |
| 指導目標 | 研修を通して学んだことを確認することで、利用者一人ひとりに向き合い、寄り添い、尊厳を守りながら自立に向けた支援を行うために必要な介護職員としての基本的な姿勢を再確認する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 振り返り | 1.0 | 1.0 | 0 | <講義内容> 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点 <演習の実施方法> グループワークにて研修で学んだことを共有 |
| ② 就業への備えと研修修了後における事例 | 3.0 | 3.0 | 0 | <実習内容> 法人内の在宅サービス事業所（訪問介護または通所介護）において、実際のサービス提供場面を見学し、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような現場実習を行う。 |
| (合計時間数) | 4.0 | 4.0 | 0 | |

| | |
|------------|------|
| 使用する機器・備品等 | 特になし |
|------------|------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。